

神奈川版

TOPICS

# 高まる消毒液需要

広がる援助、新たな商品開発も

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、衛生用品の需要が急速に高まった。特にマスクに関しては、国による配布や、手作りの取り組みなど多く報道された。

消毒液に関しても、酒造メーカーによる高濃度アルコールの製造の取り組みが行われている。また、アルコールの代用として次亜塩素酸水が、神奈川県内の多くの市で無償配布されるなど、広く普及した。今では多くの飲食店や商業施設、オフィスなどにアルコールや次亜塩素酸水が設置され、「新しい生活様式」を取り入れた経済活動再開の一助となっている。

これらの消毒液は強力な抗菌・抗ウイルス作用を示す半面、継続的な使用で手荒れなどを引き起こす可能性もある。そうした課題を克服すべく、新商品を開発した企業もある。たとえば、メディサイエンス・エスポア（株）（川崎市幸区）では従来、安全性と抗菌効果は高いが、ウイルス効果が

弱いナノ銀を加工（強化）し、抗ウイルス効果を発揮する「HTシルバー」を使用した製品を販売している。4月10日には、このHTシルバー10ppmを、同社の酸素補給水「WOX」に配合した抗菌・抗ウイルススプレー「Agウォックス10」を発売。飲用「WOX」とともに、川崎市への寄付も行われた。松本高明社長は「HTシルバーは、院内感染症対策が話題となった2006年から、従来の消毒薬で手荒れに悩む医療関係者のために、10年以上もの歳月を費やした研究成果。光や熱などによる変化も起こりにくく、効果・安定性・安全性ともに高い」と話す。



メディサイエンス・エスポアの新製品

（取材・文／横浜支店情報部 橋本 伊織）